

編集委員会から

△年報第十一集の原稿募集について

去る十月の研究大会総会の席でお伝えしましたが、当日ご出席されなかった会員の方もおられますので、少々遅くなりましたが、あらためて年報第十一集の原稿を募集します。応募される方は、「論文題目」（仮題にても可）「同要旨」を添えて一月二〇日までに申し出てください。

。送り先

〒165 東京都中野区若宮二一五六―一二一七
柿崎 京一

尚、執筆要領につきましては追ってご通知しますが、原稿枚数八〇枚（四百字）、図表は二〇枚以内、原稿〆切四月十日です。

△年報第十集の刊行について

お知らせが遅くなりましたが、「村落社会研究・第一〇集」は去る十月に刊行されました。本書の構成は概要つぎの通りです。

（論文）

- 一、現段階日本資本主義における小農民経営と村落 東 敏雄
- 一、戦前日本資本主義の農村把握のしくみについて 岩本由輝
- 一、鹿島開発における八都市と農村 安原 茂・吉沢四郎
- 一、部落財政と部落結合——一五年の変化—— 高橋明善
- 一、第二〇・二一回大会共同討議の論点をめぐって 嶋田 隆

（研究動向）

- 一、経済学における研究動向 高山隆三
- 一、経済史学における研究動向 村長利根朗
- 一、社会学における村落研究の動向 余田博通
- 一、社会人類学・民俗学における村落社会研究の動向 須藤健一
- （その他）

一、「村落社会研究」総目次（塙書房版・第一―九集）
一、編集後記（総頁数三二〇頁、定価四、一〇〇円）

つぎに、塙書房版年報及び研究叢書の既刊分について、まだ買いかねておられない方や研究室に備えておられない場合には、なるべくこの機会に手続きをとられますようお願いいたします。既に年報第一二集及び叢書一集は品切れです。さらに一〇集まで揃いますとこれまで以上に早い期間に品切れとなるおそれもありますので念のため申しそえます。ご注文は直接塙書房に申し込んで下さい。

村落社会研究		定 価	会員定価 (〒含む)
第一集	品切		
第二集	品切		
第三集	一、五〇〇円		一、二五〇円
第四集	一、六〇〇円		一、三五〇円
第五集	一、四〇〇円		一、二〇〇円
第六集	二、四〇〇円		二、〇〇〇円
第七集	二、〇〇〇円		一、七〇〇円
第八集	二、〇〇〇円		一、七〇〇円
第九集	三、二〇〇円		二、七〇〇円
第十集	四、一〇〇円		三、五〇〇円

(調査研究叢書)

近世漁村共同体の変遷過程

品切

西南九州の末子相続

二、〇〇〇円

一、七〇〇円

近世農業村落の成立と展開

二、九〇〇円

二、五〇〇円

△村研年報刊行元の変更と版權の寄贈について

村研年報は塙書房の御尽力で刊行を継続してきましたが、第一〇集の刊行を終えたところで一区切りをしたいという塙書房からの申出があり、第一一集からは出版元をかえて刊行されることになりました。新しく引受けて頂く出版元については編集委員会でも御尽力いただき見通しは明るいものと思われます。新しい企画のもとに編集すべく構想がねられています。御意見をお寄せ下さるようお願いいたします。なお、年報第一一集は新しい出版社より発行される第一年度ですので、執筆御希望の方は、期日を厳守して編集委員会や出版社の事務を円滑にしてください。よろしくお願いいたします。

年報発刊の区切りである時期にあたり、かつて年報の発刊に御尽力いただいた時潮社大内義明氏からは同社発行の年報の全版權の御寄贈を、塙書房白石楨彦氏からは、同社発行の年報で品切れになってゆくものから順次版權を御寄贈いただくことになりました。両書房ならびに大内義明氏、白石楨彦氏の両氏のこれまでの年報発刊への御協力と今回の版權寄贈に対して心から御礼申し上げたいと思えます。